

総合戦略施策検討資料 【基本目標：モノ・コトが元気！】

統計資料からみるまちの状況

- 転入超過の理由として多くを占めていた「住宅事情」が近年縮小傾向にある。
- 商店数が年々減少している。
- 観光入込客数は近年低調な傾向にある。

総合計画策定に伴う住民アンケート調査から 平成 26 年度実施 回答：697 人

- 御嵩町をほかの町の人や友人に自慢できるかについて、「自慢できる」と回答している割合は2割弱、「自慢できない」と回答している割合は3割弱となっている。
- 自慢できる内容については、自然環境や中山道などの歴史文化をあげている人が多い。自慢できない理由については、垂炭鉱等によるまちのイメージがよくないこと、特徴がないことをあげる人が多い。
- 子どもや若者が定住したい魅力があると「思う」人は2割弱、「思わない」人は3割強となっている。
- ほかの町からみて「住んでみたい町」「訪れてみたい町」というイメージを持っていると「思う」人は1割未満、「思わない」人は5割弱となっている。
- 自由意見では、中山道や願興寺、鬼岩公園といった地域資源をもっと生かした観光振興を進めるべき、といった意見が多くあがっている。

みたけ創生有識者会議 第1回、第2回意見から

- 自然体験をさせてあげたいという考え方の子育て世代にとっては、御嵩町は魅力的なまちであると思う。価値観を共有できる人を呼び込むことが大切。
- 若い女性に魅力あるまちづくりをすると、男性もついてくる。
- 地域が固有な価値を持っているからこそ、世界で通用する時代になってきている。御嵩町にしかないものを発掘していくことで、一気に世界とつながっていく可能性のある時代である。
- 観光については、地元の人などとの交流ができる観光に注目が集まっている。



統計資料やアンケート、会議での意見等から
導かれる課題と今後の方向性

- シビックプライド、郷土愛の醸成
- 御嵩町に住む人が御嵩町の魅力を再発見、評価できるような取り組み
- 御嵩町「ならでは」の価値の発掘と創造による注目度アップ
- 町の「外」と「中」を意識したプロモーション戦略
- 定住促進のための住まいの場の提供が必要
- 自然や歴史文化を活かした観光振興
- 観光やまちづくりの担い手の育成